

第6章 簡易文書作成機能の操作

高齢者用文書作成練習ソフトは、教育用ソフトウェアとして、ワープロ概念の習得に必要な最小限の機能に限定した機能を有します。

また、基本的な操作方法は、「一般に市販されている文書作成用ソフト」と同じような考え方です。

1. 基本機能

簡易文書作成機能の概要を表6-1に示します。

表6-1 簡易文書作成機能の概要

機 能	機 能 概 要
文字入力	ローマ字入力、カナ入力、半角入力、記号入力、JISコード入力
漢字変換モード	連文節かな漢字変換 固定入力
ファイル制御	読込み、保存
編集	移動、コピー、(文字単位、行単位の指定が可能) [BS]、[DEL]キーによる文字単位の削除 [INS]により挿入/上書の切替ができる 全文章の削除
印刷	開始ページ、終了ページの指定が可能
罫線	実線1種類 ([DEL]キーで罫線の消去が可能)
文字飾り	アンダーライン、強調文字 ([DEL]キーで文字飾りの解除が可能)
文字サイズ	半角、全角
ページ数	10
用紙サイズ	A4縦固定
用紙スタイル	紙の置き方 : 縦置き 文字方向 : 横書き 用紙の種類 : 連続 文字サイズ : 通常 1行文字数 : 74文字 カラー印刷 : しない 1ページ行数 : 50行 袋とじ : しない 上端マージン : 15mm ページ番号 : 付けない 下端マージン : 15mm 段組み : しない 左端マージン : 20mm 脚注印刷 : しない 右端マージン : 15mm ロック印刷 : しない
同時に編集可能な文書ファイル数	1ファイル

3. モードの種類

つぎに、モードの種類の説明を行います。

モードの変更は図6-1のようにして行われます。

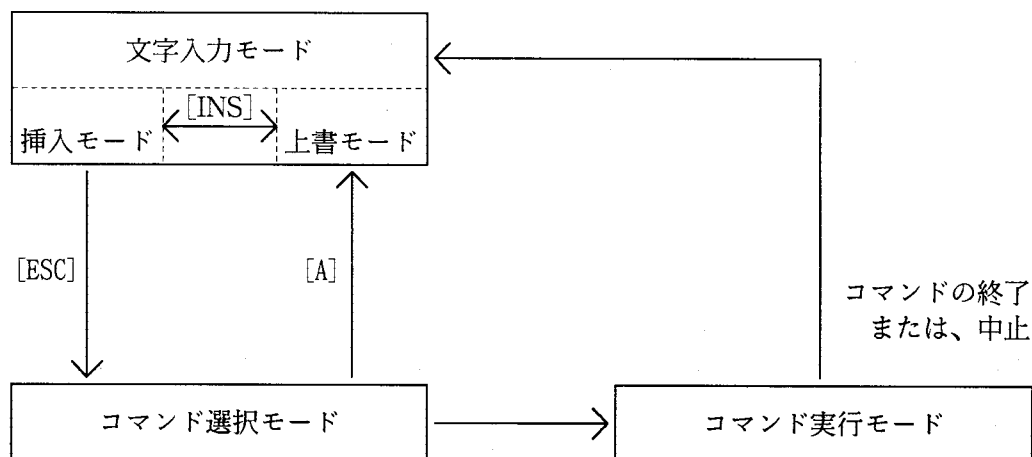


図6-1 モードの種類

① 文字入力モード

文書の入力を行います。

高齢者用文書作成練習ソフト起動時は、文字入力モードになっています。

② 挿入モード

入力した文字がカーソル位置に挿入されます。

高齢者用文書作成練習ソフト起動時は、挿入モードになっています。

③ 上書モード

入力した文字が重ね書きされます。

④ コマンド選択モード

[ESC] キーが押されたときに、本モードになり、高齢者用文書作成練習ソフトで実現できる機能（コマンド）の選択を行います。

⑤ コマンド実行モード

コマンド選択モードで選択したコマンドを実行します。

コマンドによっては、さらにサブコマンドの選択を行う必要なものもあります。

4. マウス

高齢者用文書作成練習ソフトでは、つぎの操作を行うときにマウスを使用します。

① メインメニュー、単元メニューの項目選択

メニュー項目にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

② HELPの呼出し

ヒントボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

③ 単元学習の際の単元選択メニューへの戻り

メニューボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

【注意】 マウスは、カーソルの移動やコマンドの選択など文書作成の機能としては、使用できません。

5. 実行画面

つぎに実行画面の説明を行います。

(1) 訓練段階Ⅱ、Ⅲの実行画面

訓練段階Ⅱ、Ⅲ（単体使用型訓練時）の実行画面（イメージ）を図6-2に示します。

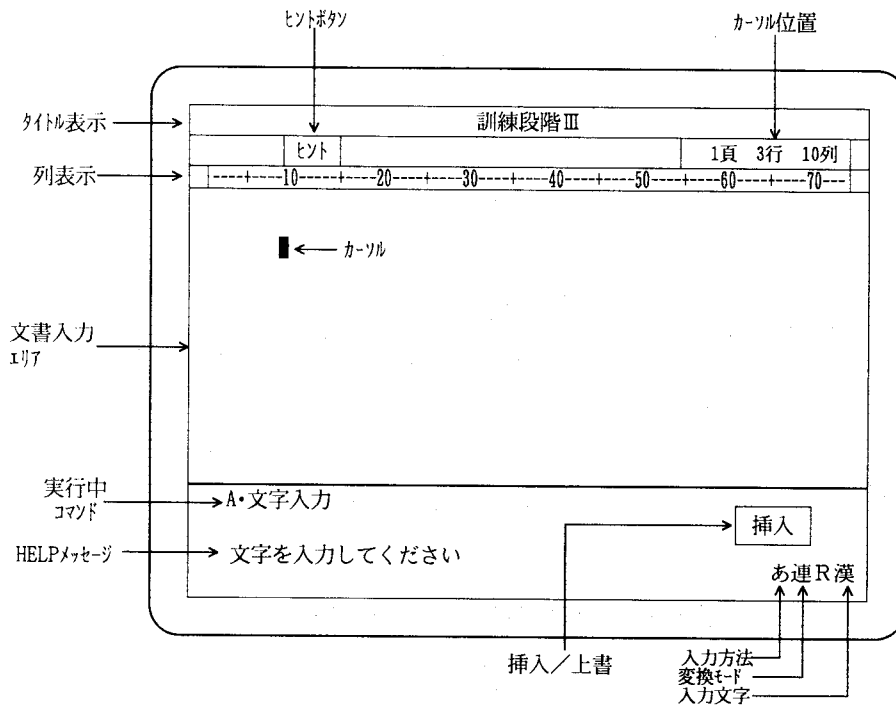


図6-2 訓練段階Ⅱ、Ⅲの実行画面

(2) 訓練段階 I の実行画面

訓練段階 I (単元選択型訓練時) の実行画面 (イメージ) を図6-3に示します。

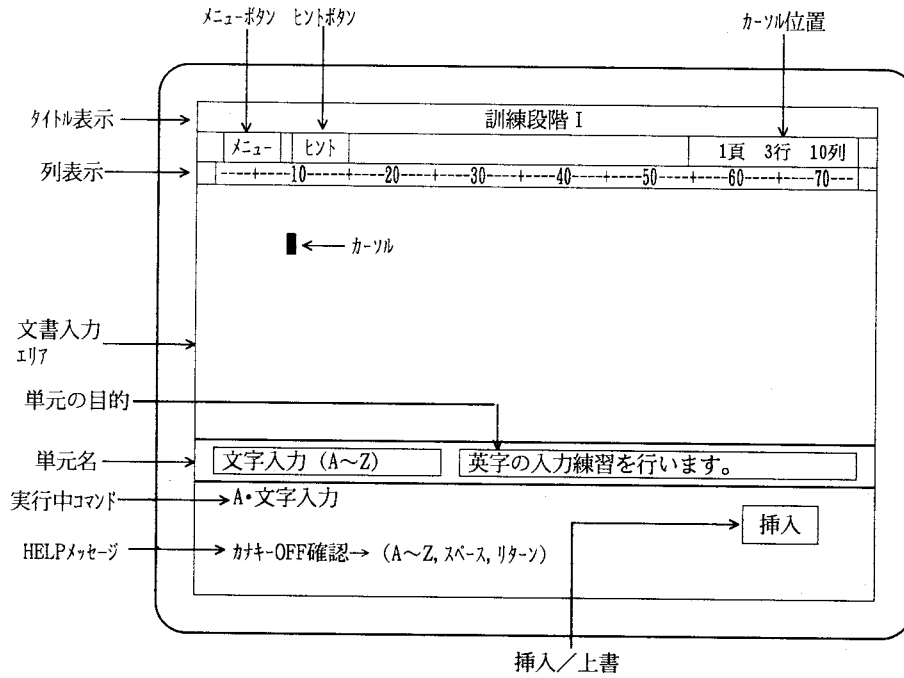


図6-3 訓練段階 I の実行画面

(3) 各部の名称と内容

各部の名称と内容は、つぎの通りです。

- ・タイトル表示 : 訓練を行っている段階を表示します。また、ファイルの読み込み／保存を行っている場合、ファイル名も表示します。
- ・カーソル位置 : 編集中の文書のページ、カーソル位置の行数・列数を表示します。
- ・列表示 : 列の目安表示です。
- ・文書入力エリア : 文書を入力するエリアです。
- ・カーソル : 文字を入力する位置や、コマンドを実行する位置を示します。
- ・メニューボタン : 単元選択型実行時のみ表示され、実行中の単元を中止し、単元選択メニューに戻るためのボタンです。
- ・ヒントボタン : HELPメッセージを表示するためのボタンです。
- ・HELPメッセージ : ヘルプ機能表示エリアです。
- ・実行中のコマンド : 現在実行しているコマンドを示します。
- ・単元名 : 実行中の単元名を表示します。
- ・単元の目的 : 実行中の単元の目的を表示します。
- ・挿入／上書 : 「挿入モード」か「上書モード」かを示します。
挿入モードの時は、「挿入」と表示します。
上書モードの時は、「上書」と表示します。
- ・入力方法 : 入力方法を示します。
ローマ字入力 : R 漢
半角入力 : 半角
コード入力 : コード
記号入力 : 記号
- ・変換モード : 変換方法を示します。
連 : 連文節かな漢字変換モード
固 : 固定入力モード
- ・入力文字 : 入力した文字の表示方法を示します。
あ : 全角ひらがな
ア : 全角カタカナ
ア : 半角カタカナ
A : 全角アルファベット
([か] キーがONの時は全角カタカナが入力文字になる)
A : 半角アルファベット
([か] キーがONのときは半角カタカナが入力文字になる)

6. コマンド

コマンドとは、高齢者用文書作成練習ソフトの機能を実行する指令のことです。

コマンドは、階層構造になっており、表示されるメニューから実行したい項目を次々と選択し、最終項目を選択すると実行されます。

(1) コマンドメニューの呼出し (コマンド選択モード)

コマンドメニューを呼出すには、[ESC] キーを押します。

つぎに示すように第1階層のコマンドメニューが表示されます。

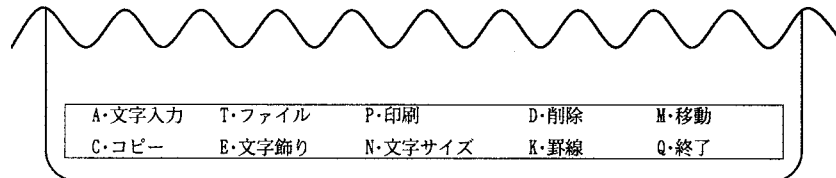


図6-4 第1階層のコマンドメニュー

(2) コマンドの選択

コマンドメニューからコマンドを選択するには、2通りの方法があります。

① コマンドに反転カーソルを移動して、リターンキーを押す。

反転カーソルを移動するキー：↑、↓、←、→、スペース、BS

② コマンドの頭文字 (アルファベット) を入力する。

(3) コマンドのキャンセル

選択中または実行中のコマンドを中止して文字入力モードに戻るには、つぎに示す2通りの方法があります。

① 第1階層のコマンドメニューのとき、「A・文字入力」を選択する。

② 第2以降の階層またはコマンド実行中のとき、[ESC] キーを押す。

(4) コマンド階層

つぎにコマンドの階層を示します。



図6-5 コマンド階層

7. コマンドの詳細

つぎにコマンドの操作方法を説明します。

(1) A・文字入力

文字の入力を行います。(文字入力モード)

第1階層のコマンドメニューでA・文字入力を選択します。

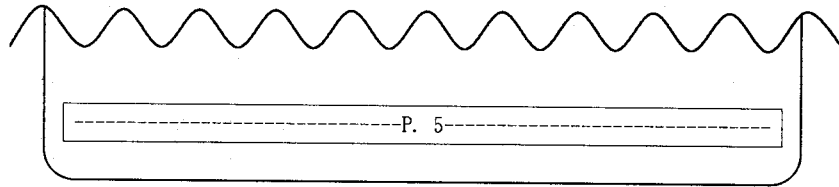
● カーソルの移動

カーソルは、[↑]、[↓]、[←]、[→] キーで移動します。

[←]、[→] キーでカーソルを移動する場合、半角単位で移動します。

● ページ区切り表示

ページの終わりには、ページの終わりを示す記号が表示されます。



● 挿入モード／上書モードの切替

[INS] キーにより挿入モードと上書モードの切替ができます。

● 文字の削除

[BS]、[DEL] キーで入力した文字の削除を行うことができます。

● 罫線内に文字を入力する場合 (罫線行)

・罫線で囲まれた中に文字を入力するとき、罫線のところで、自動的に改行されます。

・罫線枠に入りきらなかった文字は、自動的にカットされます。禁則処理は行われません。

・罫線内に文字が右端まで入力されているとき、その行に文字を挿入することはできません。ただし、上書モードにして、上書することはできます。

● コマンドメニューの呼出し

[ESC] キーで、コマンドの選択を行うコマンド選択モードに入ります。

● カナ入力、カナ入力の解除

カナ入力を行う場合は、[カナ] キーを押します。

カナ入力の解除を行うには、再度 [カナ] キーを押します。

● 固定入力モード

固定入力とは、入力した文字が変換されない入力方法です。

固定入力モードにするには、つぎの手順で行います。

- ① [CTRL] を押しながら [f・9] を押します。
- ② 入力する文字を選択します。

固定入力モードを解除するには、つぎの手順で行います。

- ① [CTRL] を押しながら [f・9] を押します。
- ② 6.解除を選択します。

(2) T・ファイル

作成した文書の読み込みや保存を行います。

第1階層のコマンドメニューで、T・ファイルを選択すると、次のような第2階層のサブコマンドメニューが表示されます。

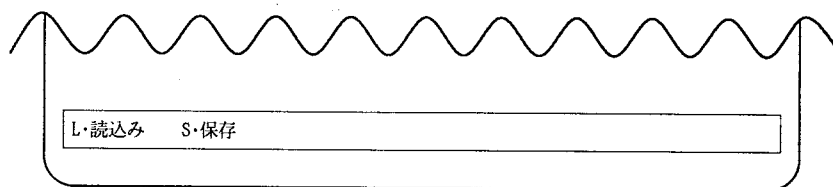


図6-6 T・ファイルのサブコマンドメニュー

● 選択できるサブコマンド

選択できるサブコマンドは次の2種類です。

- ・L・読み … ディスクに保存している文書を読み込みます。
- ・S・保 存 … 作成した文書をディスクに保存します。

① L・読み込み ([ESC] → [T] → [L])

ディスクから文書を読み込みます。

T・ファイルのサブコマンドメニューでL・読み込みを選択します。

● 文書を読み込むディレクトリ

読み込みを行うディレクトリは固定です。

A:¥TSS¥DATA¥

● ファイルの読み込み画面

T・ファイルのサブコマンドメニューでL・読み込みを選択すると、つぎのようなファイル読み込み画面が表示されます。

ファイル読み込み画面には、ファイル名と見出しが表示されます。

・ファイル名 … 読み込みを行う文書のファイル名です。

・見 出 し … 文書のコメント分です。

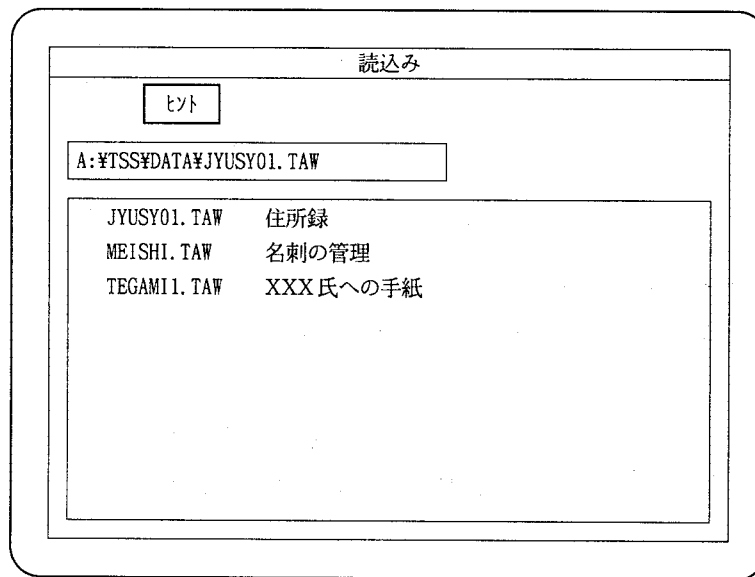


図6-7 ファイルの読み込み画面

● ファイルの選択

ファイルの選択を行うには、[↑] キーと [↓] キーで、読み込みたい文書のファイル名に反転カーソルを移動させ、リターンキーを押します。

● 作成中の文書の削除確認

作成中の文書が保存されていない場合は、作成中の文書が失われることを確認するウィンドウが開きます。

[Y] キー : 作成中の文書を破棄し、新しい文書の読み込みを実行します。

[N] キー : ファイルの読み込みを中止します。

[ESC] キー : [N] キーと同じです。

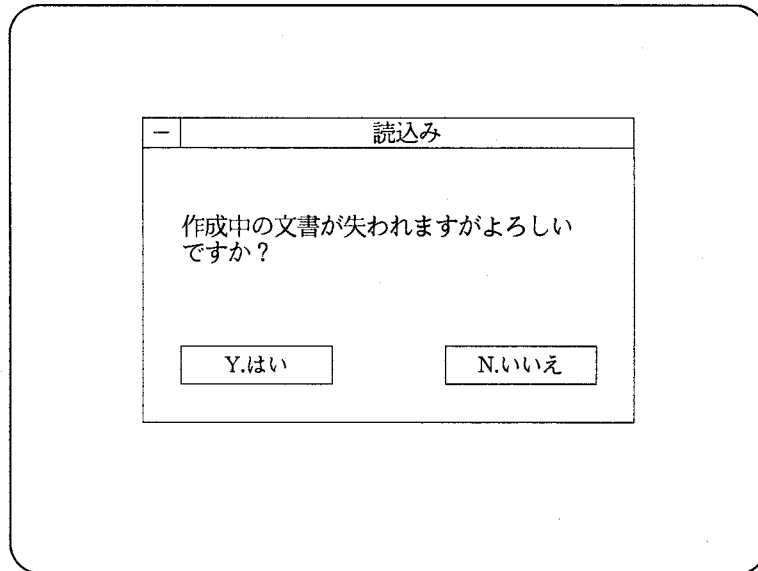


図6-8 作成中文書の削除確認ウィンドウ

● 読み込みの中止

ファイルの読み込みを中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

(読み込み実行中の中止はできません。)

【読み込みに関する制限】

- ・『一太郎』など市販の文書作成ソフトウェアのファイルの読み込みはできません。

② S・保存 ([ESC] → [T] → [S])

作成中の文書を保存します。

T・ファイルのサブコマンドメニューでS・保存を選択します。

● 文書を保存するディレクトリ

保存を行うディレクトリは固定です。

A:¥TSS¥DATA¥

● ファイルの保存画面

T・ファイルのサブコマンドメニューでS・保存を選択すると、つぎのようなファイル保存画面が表示されます。

保存を行うには、ファイル名と見出しを入力する必要があります。

The screenshot shows a window titled "保存" (Save). Inside the window, there are three input fields. The first field is labeled "ヒット" (Hit) and is empty. The second field is labeled "ファイル名" (File Name) and contains the text "JYUSY01". The third field is labeled "見出し文" (Section Head) and contains the text "住所録" (Residence Record).

図6-9 ファイルの保存画面

● ファイル名の入力

ファイル名はつぎの条件を満たすものとします。

- ・入力可能な文字は、A~Z、0~9、ア~ン（記号、漢字の入力は不可）
- ・8文字以内（拡張子の入力は不可）
- ・必ず入力すること。（ファイル名なしでは保存できません）

● 見出しの入力

見出しはつぎの条件を満たすものとします。

- ・入力可能な文字は、全角文字、半角文字
- ・60文字（半角で）以内
- ・見出しは、入力しなくてもよい。

- ファイル名の入力で見出し入力の切替
[↑] キーと [↓] キーで、ファイル名の入力で見出しの入力の切替を行います。
- 保存の実行
リターンキーで、保存を実行します。
- 更新確認
保存する文書ファイルと同じ名前の文書ファイルが存在する場合は、更新するか確認を行うウィンドウが開きます。
[Y] キー : 同じファイル名で、保存を行います。(更新)
[N] キー : ファイルの保存を中止します。
[ESC] キー : [N] キーと同じです。

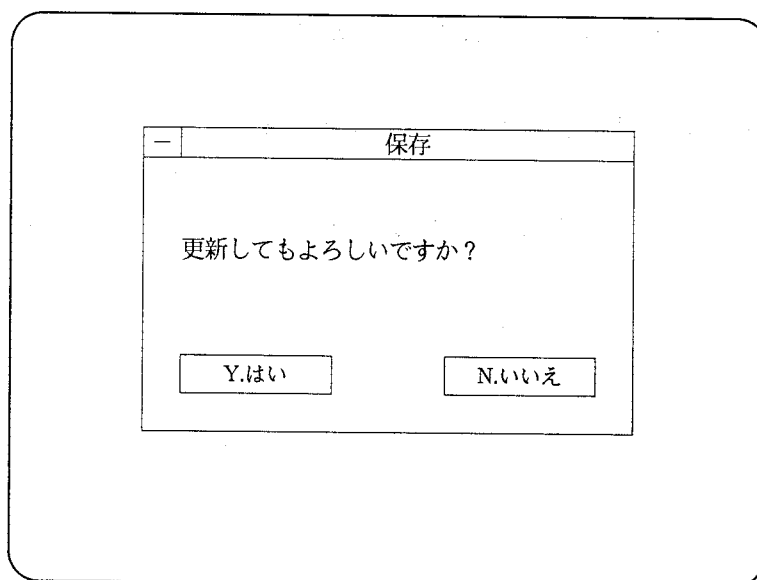


図6-10 文書ファイルの更新確認ウィンドウ

- 保存の中止
ファイルの保存を中止したい場合は、[ESC] キーを押します。
(保存実行中の中止はできません)

(3) P・印刷

作成した文書の印刷を行います。

第1階層のコマンドメニューで、P・印刷を選択すると、次のような第2階層のサブコマンドメニューが表示されます。

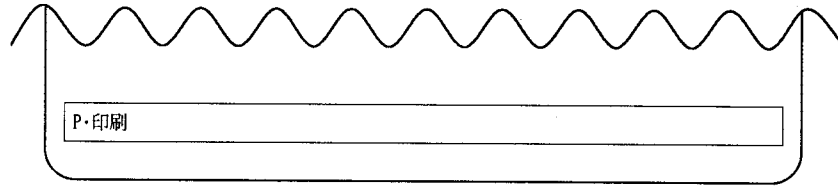


図6-11 P・印刷のサブコマンドメニュー

● 選択できるサブコマンド

選択できるサブコマンドは次の1種類です。

- ・P・印刷 … 作成した文書の印刷を行います。

【注意】 印刷を行う前に、プリンタの電源を入れ、用紙をセットして下さい。

① P・印刷 ([ESC] → [P] → [P])

作成した文書の印刷を行います。

P・印刷のサブコマンドメニューで P・印刷 を選択します。

● 印刷画面

P・印刷のサブコマンドメニューでP・印刷を選択すると、つぎのような印刷画面が表示されます。

The screenshot shows a window titled "印刷" (Print). Inside the window, there is a "ヒト" (Hit) button in the top left. Below it, there are two rows of input fields. The first row is labeled "開始ページ" (Start Page) and contains a box with the number "1" followed by the text "頁 (1~10)". The second row is labeled "終了ページ" (End Page) and also contains a box with the number "1" followed by the text "頁 (1~10)".

図6-12 印刷画面

● 開始ページと終了ページの入力

印刷を行うページを1~10の範囲で指定することができます。

- 印刷の実行

リターンキーで印刷を実行します。

印刷実行中は、つぎのようなメッセージが表示されます。

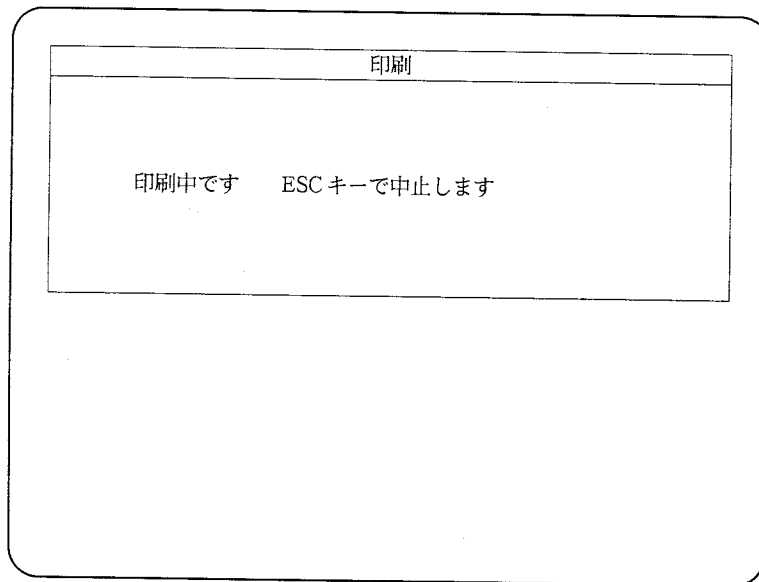


図6-13 印刷中の画面

- 印刷の中止

印刷を中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

(4) D・削除

作成した文書を削除します。

第1階層のコマンドメニューで、D・削除を選択すると、次のような第2階層のサブコマンドメニューが表示されます。

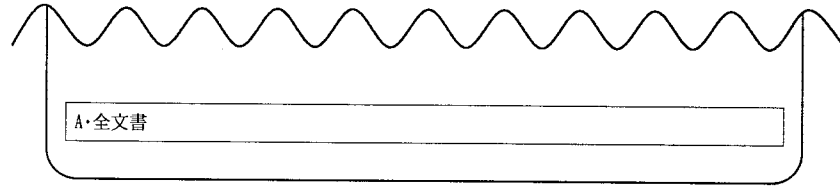


図6-14 D・削除のサブコマンドメニュー

● 選択できるサブコマンド

選択できるサブコマンドは次の1種類です。

- ・A・全文書 … 作成中の文書をすべて削除します。

① A・全文書 ([ESC] → [D] → [A])

作成中の文書をすべて削除します。

D・削除のサブコマンドメニューでA・全文書を選択します。

● 作成中の文書の削除確認

作成中の文書が保存されていない場合は、作成中の文書が失われることを確認するウィンドウが開きます。

[Y] キー : 削除を実行します。

[N] キー : 削除を中止します。

[ESC] キー : [N] キーと同じです。

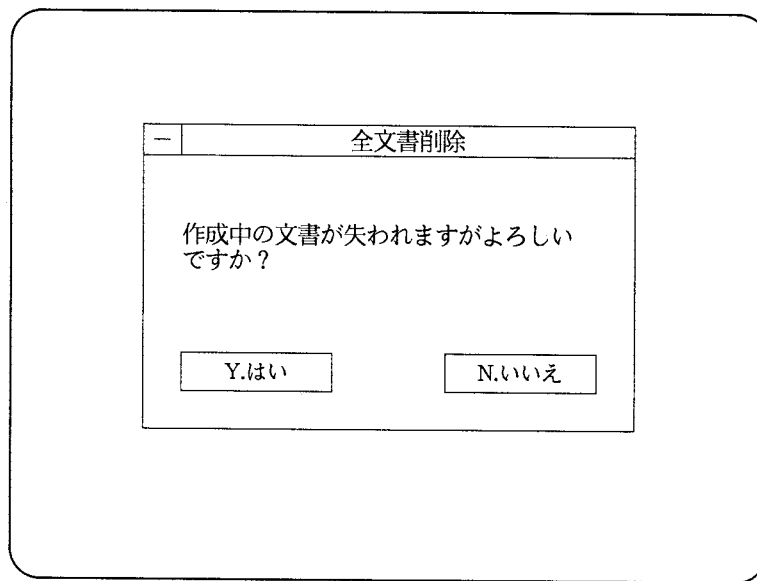


図6-15 全文書削除確認ウィンドウ

● 全文書削除の中止

全文書の削除を中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

削除実行後の中止はできません。

① C・文字単位 ([ESC] → [M] → [C])

文字単位で範囲を指定して、文字列を移動します。

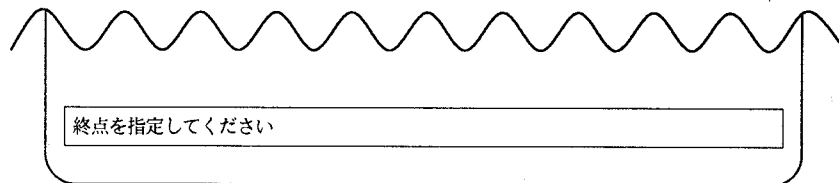
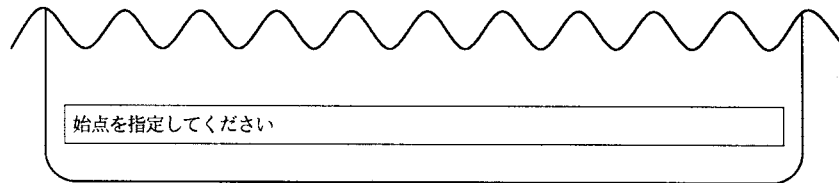
M・移動のサブコマンドメニューでC・文字単位を選択します。

移動を実行する前に範囲 (始点・終点) と移動先を指定します。

● 移動範囲の指定

M・移動のサブコマンドメニューでC・文字単位を選択するとつぎのようなメッセージが表示されます。始点→終点の順に移動範囲を指定してください。

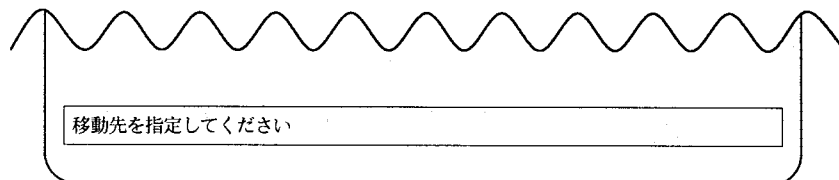
指定は、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



● 移動先の指定

範囲の指定を行うとつぎのようなメッセージが表示されます。移動先を指定してください。

指定は、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



移動先を指定すると、移動を実行します。

指定した文字列は、削除され移動先に挿入されます。

● 文字単位移動の中止

文字単位の移動を中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

移動実行後の中止はできません。

【文字単位の移動に関する制限事項】

- ・罫線を含む文字列の範囲指定はできません。
- ・文書でないエリアを含む範囲指定はできません。
- ・指定できる範囲は、1 ページ以内とします。
- ・移動先が罫線枠の場合で、移動する文字列が罫線枠に入らない場合は、枠に入る文字のみ移動し、他の文字は移動しません。(削除されます)

② L・行単位 ([ESC] → [M] → [L])

行単位で範囲を指定して、文字列を移動します。

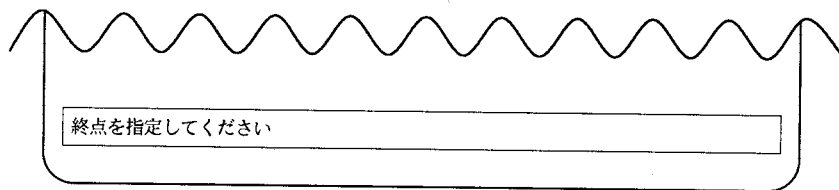
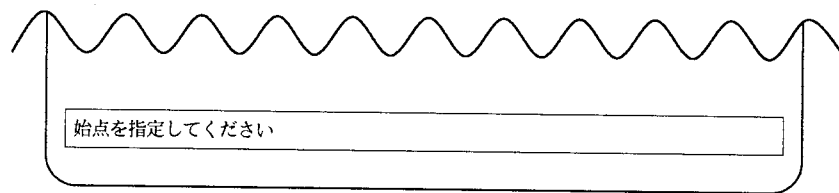
M・移動のサブコマンドメニューでL・行単位を選択します。

移動を実行する前に範囲（始点・終点）と移動先を指定します。

● 移動範囲の指定

M・移動のサブコマンドメニューでL・行単位を選択するとつぎのようなメッセージが表示されます。始点→終点の順に移動範囲を指定してください。

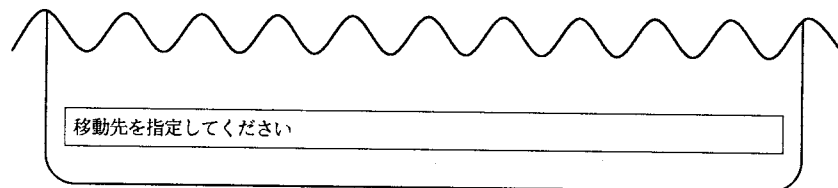
指定は、[↑]、[↓] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



● 移動先の指定

範囲の指定を行うとつぎのようなメッセージが表示されます。移動先を指定してください。

指定は、[↑]、[↓] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



移動先を指定すると、移動を実行します。

指定した文字列は、削除され移動先に挿入されます。

● 行単位移動の中止

行単位の移動を中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

移動実行後の中止はできません。

【行単位の移動に関する制限事項】

- ・ 文書でないエリアを含む範囲指定はできません。
- ・ 指定できる範囲は、1 ページ以内とします。

(5) C・コピー

文書の一部を文字単位・行単位で別の場所へコピーします。

移動コマンドと異なりコピー元は削除されません。

第1階層のコマンドメニューで、C・コピーを選択すると、次のような第2階層のサブコマンドメニューが表示されます。

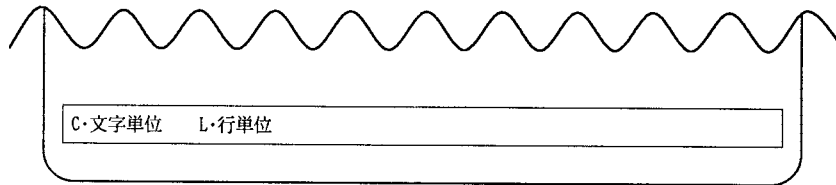


図6-17 C・コピーのサブコマンドメニュー

● 選択できるサブコマンド

選択できるサブコマンドは次の2種類です。

・C・文字単位 … 文字単位でコピーします。

・L・行単位 … 行単位でコピーします。

① C・文字単位 ([ESC] → [C] → [C])

文字単位で範囲を指定して、文字列をコピーします。

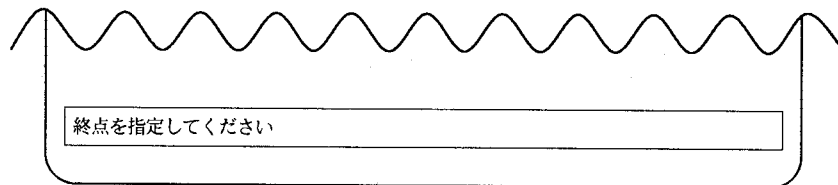
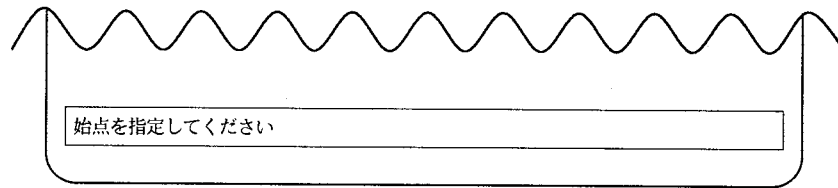
C・コピーのサブコマンドメニューでC・文字単位を選択します。

コピーを実行する前に範囲(始点・終点)とコピー先を指定します。

● コピー範囲の指定

C・コピーのサブコマンドメニューでC・文字単位を選択するとつぎのようなメッセージが表示されます。始点→終点の順にコピー範囲を指定してください。

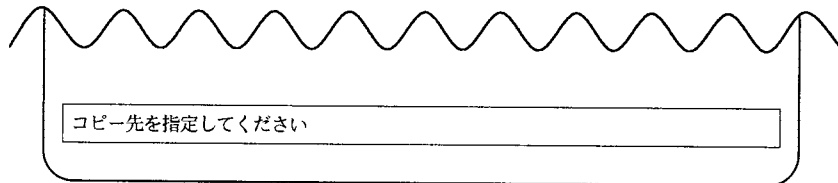
指定は、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



● コピー先の指定

範囲の指定を行うとつぎのようなメッセージが表示されます。コピー先を指定してください。

指定は、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



コピー先を指定すると、コピーを実行します。

● 文字単位コピーの中止

文字単位のコピーを中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

コピー実行後の中止はできません。

【文字単位のコピーに関する制限事項】

- ・罫線を含む文字列の範囲指定はできません。
- ・文書でないエリアを含む範囲指定はできません。
- ・指定できる範囲は、1 ページ以内とします。
- ・コピー先が罫線枠の場合で、コピーする文字列が罫線枠に入らない場合は、枠に入る文字のみコピーし、他の文字はコピーしません。

② L・行単位 ([ESC] → [C] → [L])

行単位で範囲を指定して、文字列をコピーします。

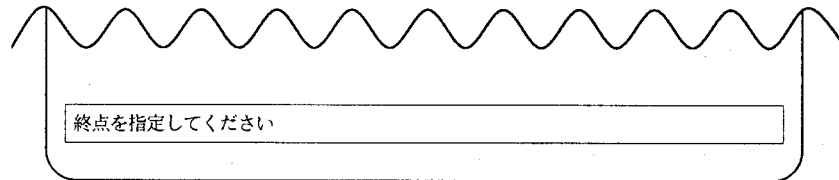
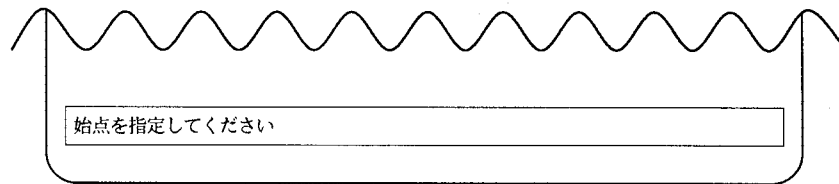
C・コピーのサブコマンドメニューでL・行単位を選択します。

コピーを実行する前に範囲(始点・終点)とコピー先を指定します。

● コピー範囲の指定

C・コピーのサブコマンドメニューでL・行単位を選択するとつぎのようなメッセージが表示されます。始点→終点の順にコピー範囲を指定してください。

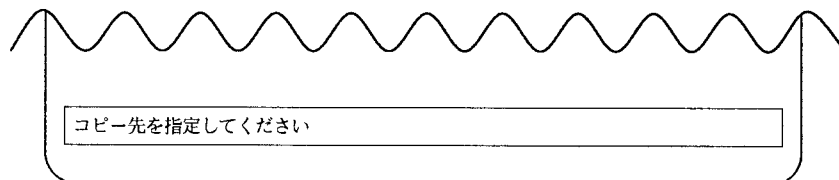
指定は、[↑]、[↓] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



● コピー先の指定

範囲の指定を行うとつぎのようなメッセージが表示されます。コピー先を指定してください。

指定は、[↑]、[↓] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



コピー先を指定すると、コピーを実行します。

● 行単位コピーの中止

行単位のコピーを中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

コピー実行後の中止はできません。

【行単位のコピーに関する制限事項】

- ・ 文書でないエリアを含む範囲指定はできません。
- ・ 指定できる範囲は、1 ページ以内とします。

(6) E・文字飾り

入力済みの文字列に文字飾りをつけます。

第1階層のコマンドメニューで、E・文字飾りを選択すると、次のような第2階層のサブコマンドメニューが表示されます。

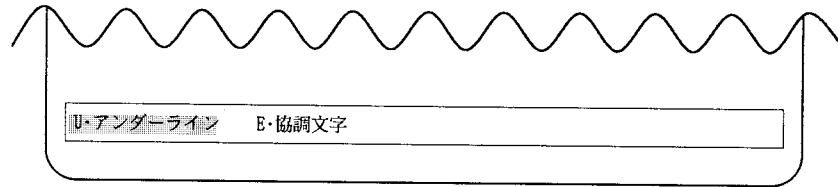


図6-18 E・文字飾りのサブコマンドメニュー

● 選択できるサブコマンド

選択できるサブコマンドは次の2種類です。

・U・アンダーライン … 指定の文字列にアンダーラインを引きます。

・E・強調文字 … 指定の文字列を強調文字にします。

① U・アンダーライン ([ESC] → [E] → [U])

指定の文字列にアンダーラインを引きます。

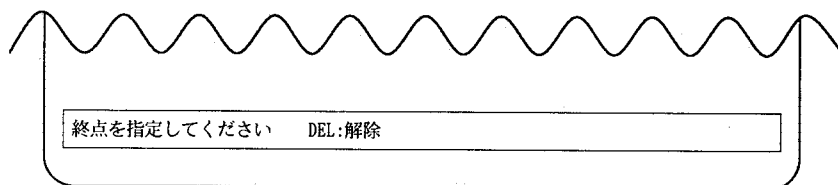
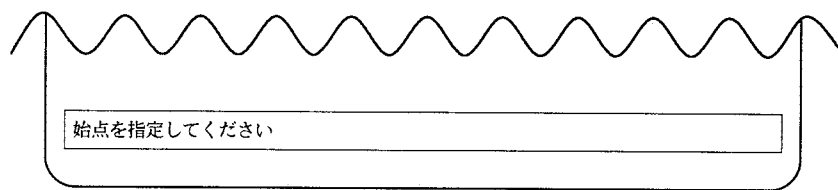
E・文字飾りのサブコマンドメニューでU・アンダーラインを選択します。

アンダーラインを引くには、範囲（始点・終点）を指定します。

● アンダーラインの範囲指定

E・文字飾りのサブコマンドメニューでU・アンダーラインを選択するとつぎのようなメッセージが表示されます。始点→終点の順に範囲を指定してください。

範囲指定は、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



● アンダーラインの解除

アンダーラインの解除を行う場合は、範囲を指定して [DEL] キーを押します。

● アンダーラインの中止

アンダーラインを中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

【範囲指定に関する制限】

- ・文書でないエリアを含む範囲指定はできません。

② E・強調文字 ([ESC] → [E] → [E])

指定の文字列を強調文字にします。

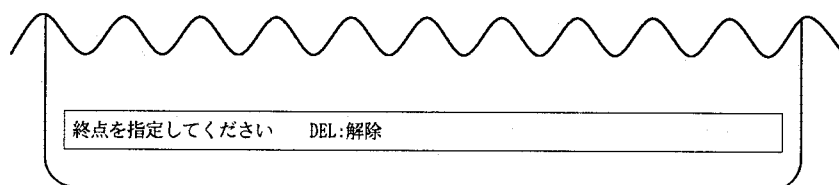
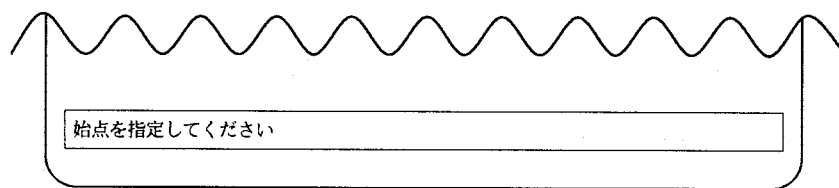
E・文字飾りのサブコマンドメニューでE・強調文字を選択します。

強調文字にするには、範囲（始点・終点）を指定します。

● 強調文字の範囲指定

E・文字飾りのサブコマンドメニューでE・強調文字を選択するとつぎのようなメッセージが表示されます。始点→終点の順に範囲を指定してください。

範囲指定は、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



● 強調文字の解除

強調文字の解除を行う場合は、範囲を指定して [DEL] キーを押します。

● 強調文字の中止

強調文字を中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

【範囲指定に関する制限】

- ・文書でないエリアを含む範囲指定はできません。

(7) N・文字サイズ

入力済みの文字列の文字サイズを変更します。

第1階層のコマンドメニューで、N・文字サイズを選択すると、次のような第2階層のサブコマンドメニューが表示されます。

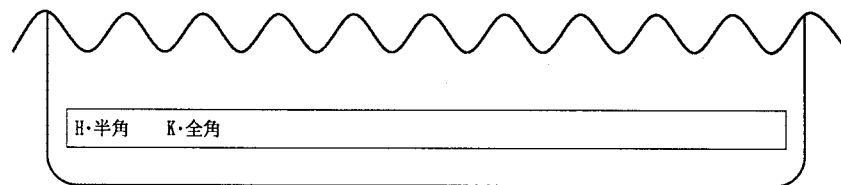


図6-19 N・文字サイズのサブコマンドメニュー

● 選択できるサブコマンド

H・半角 … 指定の全角文字列を半角文字列に変換します。

K・全角 … 指定の半角文字列を全角文字列に変換します。

① H・半角 ([ESC] → [N] → [H])

指定された全角文字列を半角文字列に変換します。

N・文字サイズのサブコマンドメニューでH・半角を選択します。

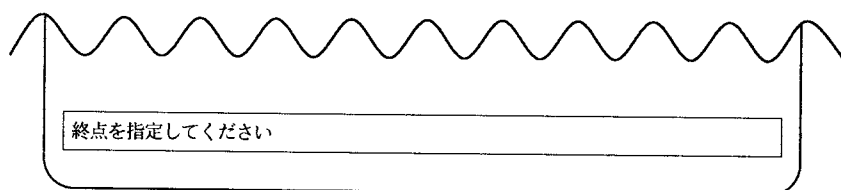
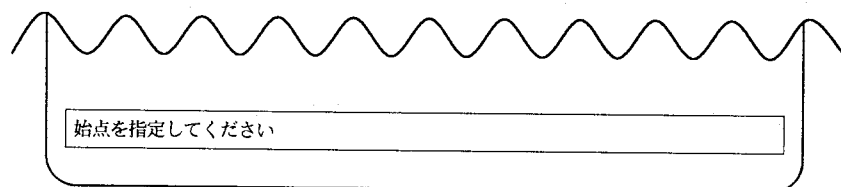
変更できる文字は、英数字などのような、半角で入力できる文字のみとなります。

半角に変更するには、範囲（始点・終点）を指定します。

● 範囲指定

N・文字サイズのサブコマンドメニューでH・半角を選択するとつぎのようなメッセージが表示されます。始点→終点の順に範囲を指定してください。

範囲指定は、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



● 半角への変更を中止

半角への変更を中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

【範囲指定に関する制限事項】

- ・ 文書でないエリアを含む範囲指定はできません。
- ・ 罫線を含む範囲指定はできません。

② K・全角 ([ESC] → [N] → [K])

指定された半角文字列を全角文字列に変更します。

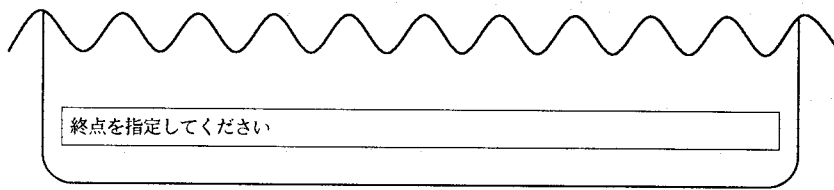
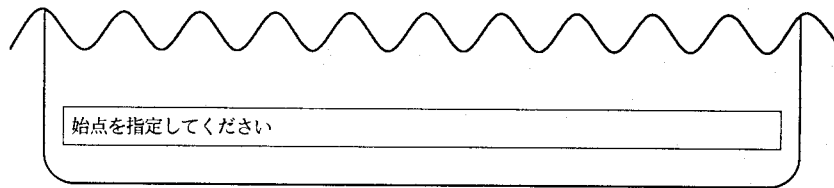
N・文字サイズのサブコマンドメニューでK・全角を選択します。

全角に変更するには、範囲（始点・終点）を指定します。

● 範囲指定

N・文字サイズのサブコマンドメニューでK・全角を選択するとつぎのようなメッセージが表示されます。始点→終点の順に範囲を指定してください。

範囲指定は、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動し、リターンキーで指定します。



● 全角への変更を中止

全角への変更を中止したい場合は、[ESC] キーを押します。

【範囲指定に関する制限事項】

- ・ 文書でないエリアを含む範囲指定はできません。
- ・ 罫線を含む範囲指定はできません。

(8) K・罫線

罫線を引いたり消したりします。罫線コマンドは、[ESC] キーで中止するまで繰り返し実行します。

第1階層のコマンドメニューで、K・罫線を選択します。

罫線は、全角1行罫線のみとします。

(縦線を引く場合に全角1文字を使用、横線を引く場合に1行使用)

罫線を引いた行には [H] マークを表示して、罫線行であることを示します。

● 罫線の範囲指定

罫線を引く(消す)には、始点と終点を指定します。

始点を指定するには、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動してリターンキーを押します。

終点を指定するには、[↑]、[↓]、[←]、[→] でカーソルを移動し、線を引く場合はリターンキーを、削除する場合は、[DEL] キーを押します。

● 罫線の部分削除

[BS] キーや [DEL] キーで罫線を消すことができます。(上書モードのときのみ)

● 罫線コマンドの終了

罫線コマンドを終了する場合は、[ESC] を押します。

【罫線に関する制限事項】

- ・ [TAB] キーや [SHIFT] + [CTRL] + [f・1] ~ [f・4] を使用した中罫線(格子)を引くことはできません。
- ・ 罫線内の角の面取りはできません。
- ・ 軌跡、括弧、斜線、線種変更はできません。
- ・ 行や列の挿入や削除はできません。

(9) Q・終了

作成中の文書を保存、あるいは保存せずに終了します。

第1階層のコマンドメニューで、Q・終了を選択すると、次のような第2階層のサブコマンドメニューが表示されます。

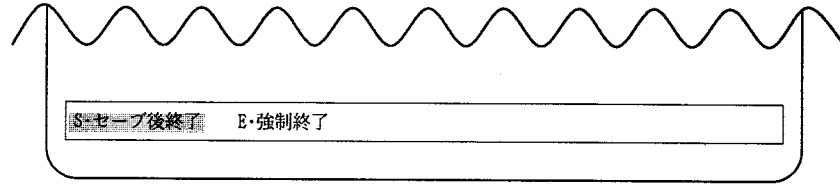


図6-20 Q・終了のサブコマンドメニュー

● 選択できるサブコマンド

選択できるサブコマンドは次の2種類です。

S・セーブ後終了 … 作成中の文書を保存した後、終了します。

E・強制終了 … 作成中の文書を保存しないで終了します。

① S・セーブ後終了 ([ESC] → [Q] → [S])

作成中の文書を保存した後、終了します。

Q・終了のサブコマンドメニューでS・セーブ後終了を選択します。

保存方法は、T・ファイルのS・保存と同じです。

② E・強制終了 ([ESC] → [Q] → [E])

作成中の文書を保存しないで終了します。

Q・終了のサブコマンドメニューでE・強制終了を選択します。

● 作成中の文書の削除確認

作成中の文書が保存されていない場合は、作成中の文書が失われることを確認するウィンドウが開きます。

[Y] キー : 強制終了します。(作成中の文書は保存されません)

[N] キー : 終了を中止します。

[ESC] キー : [N] キーと同じです。

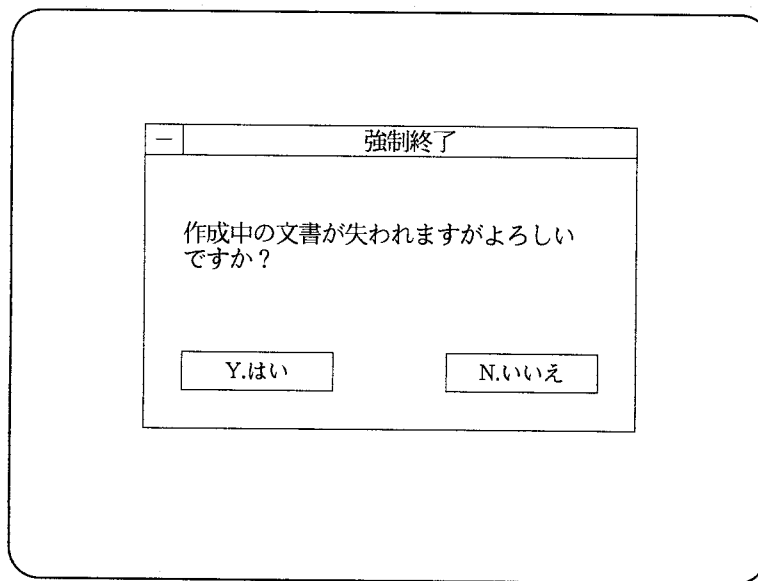


図6-21 強制終了確認ウィンドウ